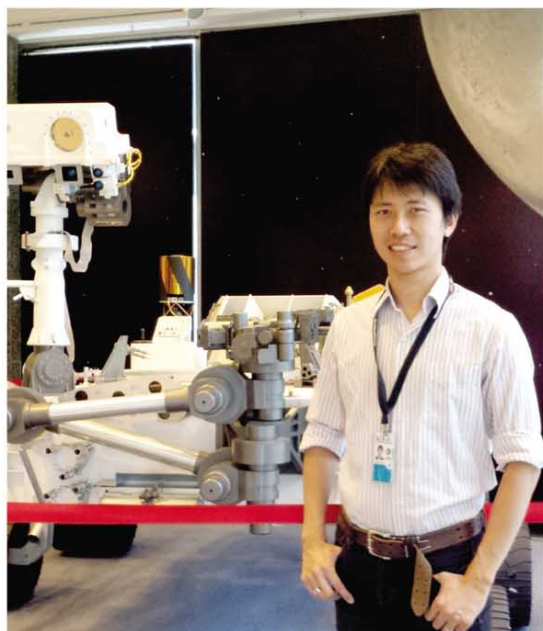


「歴史に刻まれる 仕事がしたい」

小野 雅裕

Masahiro Ono



仕事での夢は、宇宙開発の歴史に刻まれる仕事をする事。プライベートでは、将来自分が行ったプロジェクトが博物館に展示され、それを子供や孫に見せること、と語る小野雅裕さん



▲「宇宙が好きで、頑張れるのは誇められない夢があるから。逆にこれは叶わなかったら死ぬほどつらい呪縛でもあり、でも夢があるから頑張れる。夢があることは大事だと思います」

▶小野さんが、これまでの人生を書いた「宇宙を目指して海を渡る」が東洋経済新報社より発刊されている。30年の夢の軌跡は、理系らしからぬ情熱的なタッチで痛快。大人にも大人予備軍にも必読の書だ



この記事はDaily LALALA(dailylalala.com)でもご覧いただけます。

NASAの研究施設で、無人探査機等の研究開発や運用に携わる研究所「Jet propulsion laboratory (JPL) ... ジェット推進研究所」。パサデナにあるこの研究所にリサーチテクノロジストとして勤務するのが小野雅裕さんだ。

「僕の仕事は宇宙を探索するロボットが危険察知やデータ収集するための『脳』を作ることです。JPLでは、自分でプロジェクトを提案して研究費を獲得する能力が評価の対象となります。僕もNIAACという、NASAの競争的研究資金に応募しました。何百件も申請される中で選考を通るものは10件くらいなのですが、通れば1千万円の研究費がもらえます。6月初めに、自分のプロジェクトが審査を通過したという知らせがあつたんです。本当に嬉しかったですね」

大阪生まれ、東京育ちの小野さんは、名門開成中学から高校そして東京大学へ進学。東大卒業後はマサチューセッツ工科大学へ進み、マスターとドクター課程を修了した。

「僕の父は宇宙が好きで、学生時代から天文部へ入り、自分で天体望遠鏡を作ってしまうほどでした。僕はそんな父が楽しそうに星を眺めている姿が好きで、宇宙に興味を抱いたんです」

子供のころの原体験は父と並んで夜空を見つめることだったという小野さんは、モノづくりに興味があつたことから航空宇宙工学を専攻した。

一度は落とされたが諦めきれず、JPLにインターンとして入り、昨春に正式に所員として採用された。

「子供の頃から、1977年に打ち上げられ、太陽系の外惑星や太陽系外の探査へ飛び立つた無人宇宙探査機『ボイジャー』が大好き。ボイジャーは僕にとってヒーローです。また2010年に宇宙飛行士の山崎

直子さんがスペースシャトルに搭乗した時には、涙が出るほど感動しました」と話す小野さんだが、自分は宇宙へ行くことよりも、宇宙を知るための機械を作りたいと、宇宙工学の研究に邁進する。

「今回審査を通過した研究は、10年後100年後を見据えたもので、なかなか理解してもらうのは簡単ではないのですが、この機会を最大限に生かして頑張りたいと思っています」

今後の活躍が大いに期待される小野さんの仕事は、スタートしたばかり。やるからは宇宙開発の歴史に残る仕事したいと語る。

「父は『おまえは何をするのも自由だが、自分の子供に誇れる仕事をしなさい』と諭してくれました。僕は父が宇宙を眺める姿が大好きでしたから、僕も宇宙開発の仕事が大好きだということをお子に見せていけたらと思います」。